



第5号 2021年2月発行 松阪地域 在宅医療・介護連携拠点

第13回 多職種勉強会を開催しました！

1/29(金)に「こんな時どうしてる？共有しよう！新型コロナウイルス対策」をテーマに多職種勉強会を開催しました。今回は、オンラインのみの講義形式の開催で、約170組の方々にご参加いただきました。

話題提供では、松阪市民病院 感染管理認定看護師の宮村枝里子氏、平岡内科循環器科 院長の平岡直人氏、松阪・多気地区地域リハビリテーション連絡協議会 会長の木村圭佑氏の3名の講師にご講義いただきました。司会進行は松阪地区歯科医師会 理事の黒井建志氏にいただきました。

宮村氏からは、介護施設等の現場における具体的な対策について、平岡氏からは、松阪地域の新型コロナウイルス感染症の発生状況やPCR検査の現状、診療所としての取り組みについてお話いただきました。また、木村氏からは、リハビリテーション協議会で昨年末に行った「新型コロナウイルス感染症についてのアンケート」結果をもとに、地域の医療機関や介護事業所での取り組みの現状や対応の工夫についてお話いただきました。また、最後に勉強会の講評をいただいた松阪保健所の植嶋所長からも、マスクの有効性についてご講義いただき、とても内容の濃い勉強会になりました。



～参加者の方々の感想～

- ・「●暗い気持ちにならない ●必ず夜は明ける! ●みんなで励まし合って頑張ろう」など、それぞれの講師のメッセージが心に響いた、前向きな気持ちになれた。
- ・勉強会で学んだことを生活や職場の中で実践していきたい。

オンライン研修については

- ・感染防止につながる。
- ・移動時間もなく、参加しやすかった。



左から
宮村氏、小林氏(松阪地区医師会会長)、
平岡氏、木村氏

初めてのオンライン研修で、参加者の方々には、ご迷惑をおかけした点もありましたが、回を重ねるごとに快適な研修となるように努めてまいります。たくさんのご参加ありがとうございました。



多職種紹介リレー

前回号より、普段の関わりのきっかけづくりなることを目的に、地域の専門職に方々にリレー形式で自己紹介をしていただいています。

松阪地区医師会 会長的小林昭彦先生から、次にバトンを受け取っていただいたのは、松阪市民病院訪問看護ステーション 師長 市川千恵子さんです。



みなさんこんにちは！第一走者の小林先生よりバトンを受け、今回は、はばかりながら、私が努めさせていただきます。私は、看護師として松阪市民病院へ就職し、早30年になろうとしています。色々な部署で勤務してきましたが、現在の訪問看護ステーションが一番長く勤務している部署となりました。住み慣れた地域で暮らしたいと思われる方々が、安心して生活できるように微力ながら頑張っていきたいと思っています。

- ・さて、私事のお話になりますが、私は大の猫好きで、現在4匹の猫を飼っています。
- ・猫好きでない人には興味がないと思われるかもしれませんが、この4匹の紹介をしたいと思います。
- ・4匹ともに雑種で、メス2匹は捨て猫。オス2匹は兄弟で、猫好きのあるお医者さんからもらい受けました。



一番の年長さんは、12歳くらいで白黒の特徴的な柄のメス猫で「ルクちゃん」です。年なのか最近足腰が弱ってきて、ヨタヨタと歩きます。食欲はありますが、カツオ味のおいしいキャットフードしか食べないお嬢様です。

次は、真っ黒のメス猫「ジジちゃん」です。魔女の宅急便のジジのようにかわいいです。最近は、まるまると太ってきました。凶暴でおなかやおしり部分を触ると爪で引っかかれます。

最後は、キジトラの兄弟、「ポンちゃん」と「カンちゃん」です。ポンちゃんは、少しおバカな猫で、家のいたるところにオシッコを振りまくので、とても困っています。でも憎めないところがあります。カンちゃんは鼻筋の通った男前です。多分猫世界でもメス猫にもてると思っています。とてもシャイな子で抱っこが苦手です。猫にも個々に性格や仕草が異なっていますが、癒されることが多いです。

実際の看護でも、個別性を大切にしていきたいと思っています。

市川さんからバトンを受け取っていただいた方を次号で紹介します。お楽しみに。



『医療と介護の連携ハンドブック』が完成しました



令和元年度より、松阪地域では、在宅医療・介護連携推進事業における「医療と介護関係者の情報共有の支援」の取り組みの一環として、『医療と介護の連携ハンドブック』の作成に取り組んできました。このハンドブックは、連携の基本やスキルアップにつながるヒントをまとめたもので、地域の医療・介護の専門職で共有することを目的に作成されました。病院や介護施設などの関係者を委員とするまつさか医療～顔の見える連携会議や実務者検討委員会、多職種勉強会、アンケートで得られた意見がハンドブックに反映されています。

12月に完成し、松阪市・多気町・明和町・大台町の医療機関、介護事業所に向けて発送をいたしました。同封のアンケートにて、ご覧いただいた感想や活用方法について、さまざまなご意見、ご感想をいただいています。ハンドブック作成の振り返りや、今後の見直しの参考にさせていただきます。引き続きアンケートのご回答をお待ちしていますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

第2回「わおん」川柳 *テーマ『ふとした思いやり』

今回は、『ふとした思いやり』をテーマに募集をしました。

連携を行う上でも大切な“思いやり”ですが、改めて考えると、日常生活や仕事の中で、そのような場面を見つけたり、また、それを川柳で表現するには、難しいテーマだったかもしれません。

ご応募いただいた方々、心温まる作品をありがとうございました。

一部の作品をご紹介します。

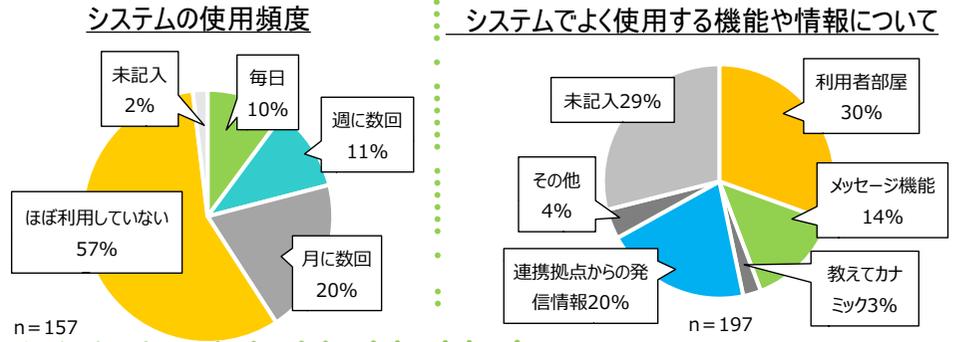
金賞	思 心い (ヒあにや ムれ余り □ば裕 カこが イトそ)	金賞	あ このが (なつう まれな つこ)
銅賞	死 怖ぬ くこと 笑な (ウイさん)	銀賞	手 そ伝 愛のう があるよ (すずもなか)

ごめ	雪 フの (な□朝 ハでン ヤシたト シラあガ ライとラ イスとス)
おはん	ご おはん (タニ濃 シが濃 カいい ワよ進? ラよんで)

連携拠点からのお知らせ

■「すずの輪」の活用状況についてアンケート結果

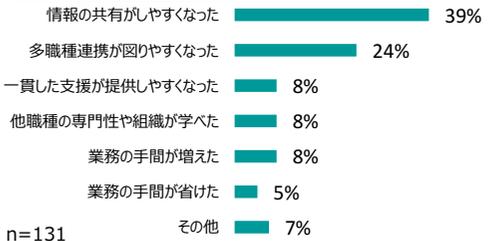
昨年8月に情報共有システムの使用登録者を対象に「すずの輪」の活用状況についてのアンケートを実施しました。たくさんの方々にご協力いただき、ありがとうございました。アンケート結果は、すずの輪にも掲載いたしました。一部をご紹介します。



たくさんの貴重な意見をいただきました。結果からも、このシステムをまだまだ十分に活用できていないことがわかりました。

一方で、実際にシステムを使ってみると、情報共有のしやすさや連携の促進につながっていることもわかりました。今後も、たくさんの方々に活用いただけるよう、周知や情報発信に取り組んでいきます。

情報共有システムを利用することで連携や業務に変化はありましたか?



■職員交代について

1月より、連携拠点の事務職員が交代しました。



友田 愛(ともだ めぐみ)です。地域の医療・介護に携わる皆様へのサポートができるよう心がけてまいります。知らない事ばかりですので、日々学びながら仕事を覚えていきたいと思っておりますので、宜しくお願いいたします。



あとがき ♪♪♪♪♪
連携拠点は、もうすぐ丸3年を迎えます。連携拠点の存在や役割は、まだまだ知られていないのが現状です。これからも引き続き、周知に力を入れていきます。次号は、夏頃を予定しています。

松阪地域 在宅医療・介護連携拠点
〒515-0076 松阪市白粉町363番地
(松阪地区医師会館1階)
TEL:0598-25-3070 FAX:0598-25-3071
メール:ks-shien@city.matsusaka.mie.jp
◇月～金 9:30～16:00◇